

街角には郷愁が漂う

シリーズ 街並み 拝見 5

のどかな風情がある歴史の里・平野

◆ 静かなたたずまいの中に
伝説の「たんだの椿」は満開。

平野は尼寺、今泉、白鳳台に囲まれるようにある集落。葛下川の支流・平野川に沿って民家が軒を接するようにあります。現在はそのほどの数の集落ではありません



が、かつては「平野千軒」と呼ばれるほどの大集落だったそうです。

住宅地図の看板を見ながら川に沿って上流へ。曲がりくねった民家の間の道は車一台が精一杯の幅。ようやく家々を抜けると、左に杉や竹のまばらな雑木林、右に田畑

が広がって見えます。遠くにゴルフ場のネットが見えて、竹林が風に揺れています。田畑の中にポツンと一本の木が立っていますが、これが伝説の「たんだの椿」。

かつて「平野千軒」といわれた頃、長者の屋敷に椿の大木があって、いつも美しい花をあふれんばかりに付けて咲かせていました。ところがお姫さんの病気の原因かと疑われ、その椿の木は切られてしまいました。すると、集落は次第にさびれていったのです。

その長者屋敷の椿のひこばえから何代も経たのが、現在の椿の木だといわれています。椿は、かつての木のようにいっぱい真紅の花を付けていました。あぜ道には落花が散り敷くように、かたわらには小さな祠がまつられていました。ミツバチが花と花の間を飛び、

メジロが鳴いて、モンシロチョウがネギ畑をひらひらと舞っていました。そんなのどかな風景が「たんだの椿」の周辺にはありました。

◆ 古墳と石仏が時代を
競って、並んでいました。

ゴルフ場のネットを遠目に見ながら、川を渡って、谷間の向こう側を集落のほうへ。たんぼの中に木の切り株が幾つも並んでいます。これがあの現代美術のオブジエかなと一瞬思いましたが、よく眺めてみると、小さな穴が開けてあります。たぶん、これはシイタケの原木なのでしょうね。ちょっと不思議な光景でした。

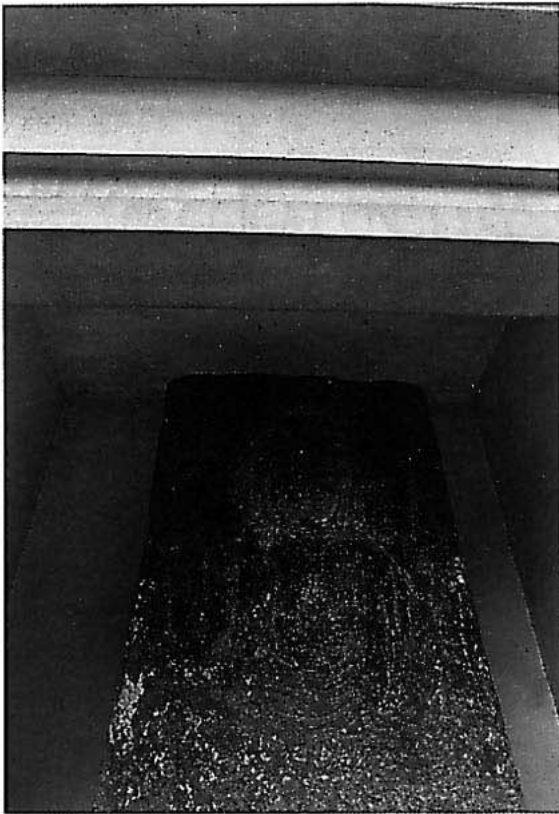
細い道をたどり、左の高台に白鳳台の住宅地を見ながら進みます。梅の香りがなんとなく漂ってくるような、春の屋下がりの静けさ。





そりかえったような石垣を巡らせた家が続いて、白壁がまぶしく、重厚な雰囲気は漂う一角を山手へと道を取ります。

左に庭園が見えて、右の小高い山のようなものが、平野塚穴山古



墳。幕末までは顕宗天皇陵とされていたといえます。古墳の石室を見ようと、ぐるりと回って正楽寺の境内へ。コンクリートの祠が二つ、左には赤い前垂れをかけた小さな石仏が、右は薄肉彫りの阿弥陀如来座像石仏が鎮座されてました。この阿弥陀さんは古墳の石棺を利用して刻まれています。いわゆるリサイクルですね。

石室をのそいて見ようと、古墳に付いた石段を登ってみました。石で囲まれた横穴は、柵で閉じられていましたが、側に詳しい説明板があり、この古墳が貴重なものだとはよく分かりました。しかし、マツやシイの木々がまばらに生えた墳丘は、どことなく人頭を思わせてユーモラスです。

◆道端にゴロンゴロンと、存在感のある「七つ石」

正楽寺のコンクリート造りの本堂を見ながら、石段を降りて小道へ。小道を左に向かうと、地道に出ます。杵築神社の参道です。参道を上って、社殿の方へ向かうと、うっそうとした背後の森から、どことなく荘厳な雰囲気は漂ってきます。

神社の門前から小道を右へ。確かこの辺から「七つ石」があるはずと、探しながら道をたどります。建築中の民家の前に、塀の横に、納屋の中に、駐車場の横に、そして畑の横にとりわけ大きな石がありました。ん、これでは五つか。あと二つが分かりません。そこで大石の横の畑で農作業していたおばあさんに聞いてみました。

「あと一つは杵築神社の近くの民家の奥にあるが、残りの一つは私も知らんなあ。見たことがないわ。昔は家が建ってなかったから、こちらの石もたんぼの中でもっと目立ってたんや。一番目立つのがこの石やな。さあ、誰が持ってきたもんか。昔からあるからなあー」昔をよく知るおばあさんでさえ、もう一つの石の在りかは分かりませんでした。結局、「七つ石」は、現在「六つ石」になっているようです。(資料には、たんだの椿の近くにあるとか)

しかし、現在こそ家の陰や塀に隠れて目立ちませんが、こんな大石がたんぼの中にゴロンゴロンとしている光景は、さぞ異様だったことでしょう。だからこそ、「七つ石」の伝説が生まれたのだと思います。

伝説にあるように、発破の穴をあけたような跡が並んでいました。さわると表面はすべすべしています。たぶん、大勢の人々に触られてきたのでしょう。いろいろやがともいい。思わず、ええ石やなあ とつぶやきそうな石でした。

ふと右手を見ると、川沿いの住宅のある場所に戻っていました。平野の集落をぐるりと一周回っていたのでした。

「平野千軒 たんだの椿
今もあります 七つ石」

